

序

本学は立正安国の祖意にのっとり行学二道に励み、不動の信心を策励し、四海帰妙の願業達成に精進するをもって建学の精神とする。いわゆる一に給仕、二に行法、三に学問の三則はこの精神を成せんための学是であるが、いうまでもなくこれらは仏祖に対する給仕であり、行法であり、学問であってこれが僧団の行軌にひきつがれていくのである。従って給仕は行法・学問に裏付けされ、行法・学問もそれぞれ他の二面を内容として成り立ちこれが本学々々の行学を指導する理念となるのである。

思うに本学がそのかみ、西谷の学室に開講されてより西谷檀林として学徒の養成にしたがい、幾多の英才・俊哲を輩出し、充棟の書籍またその棟を競うたが、明治の廃檀と共に四方に分散してその面影を失った。明治末年に及んで祖山学院として復興し乃至身延山短期大学と変貌すると共に蔵書また漸次集積したが校舎の狭隘は蔵書の活用に限らず、図書館の設立は同窓生諸聖の久しく希求する所であった。

近来、同窓会は全国同窓会に呼びかけて図書館建設促進の勸募を行ってきたが、昨年、本山は七百遠忌記念事業の一環として図書館建設を取りあげ、設計、施工者も決定して本年一月二十日地鎮祭が行われ、いまボーリング、ブルドーザーの音が力強くひびきわたり、来春新学期完成の見込で工事は進められている。

宗祖は「仏法は勝負を先とす」と八万法蔵の優劣浅深を究めて法華経を撰び、但信口唱の要法を勸信されたが、同時にこの法華経を弘めんには「一代の聖教を安置し八宗の章疏を習学すべし」と広学多聞の研鑽を策励し、「我門家は夜は眠を断ち、昼は暇を止めてこれを案ぜよ、一生空しく過して万歳悔ゆることなかれ」と止暇断眠の精進を厳誡されている。本学図書館は法華経に関する八宗・十宗・内外の經典、疏釈万般にわたって蒐集し、身延山短期大学の図書館に行けばおおむね用をたすことができるといわれる充実したものとし宗祖の御遺命にこたえたいと全学をあげて努力精進する決意を堅めている。願くは同窓生諸聖、本学教職員並びに同窓生の念願を諒とせられ図書館の今後の整備拡充に倍旧の助成をたまわらんことを。

昭和六十二年三月十五日